

# ミステリ読書案内

2023. 10. 11 発行元

第520号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## J・D・カー「ベスト表」(再掲)

ジョン・ディクソン・カー(カーター・ディクソン名義も含めて)の『ベスト表』を再び取り上げてみよう。不可能犯罪、密室もの、怪奇趣味…など独自の世界を作り上げ、熱狂的なファンも多い作家である。

### 『密室もの』のスペシャリスト

この『ミステリ読書案内』の『カーの代表作』特集号では『火刑法廷』『ユダの窓』『三つの棺』を取り上げた。『ユダの窓』と『三つの棺』は「密室もの」の古典とも言うべき傑作。歴史に残る名品である。

カーは「密室もの」のスペシャリストで、特に日本ではファンも多い。私も学生時代に必死にカーの本集

めをしたものだ。今では全作品が日本語訳になったようだが、全作品を集めようとするとかかなりの努力が必要になってくるだろう。

今回は『赤後家の殺人』と『曲った蝶番』の二作を紹介することにした。「カーらしさ」を満喫するに相応しい作品。ヘンリ・メリヴェル卿(H・M卿)、そしてギデオン・フェル博士のドタバタも楽しんでもらえたらいいと思う。

### 『赤後家の殺人』

1935年の作。カーター・ディクソン名義の第四作に当たる。私の手元にある本は創元推理文庫1973年の第10版。この150年間に4人の不審死があったという部屋「赤後家の間＝ギロチンの間」で起きた事件を扱っている。

「いったい、部屋が人間を殺せるものかね？」という台詞で始まる。ハーバード大学のマイクル・テアレン博士は、夜、ロンドンの通りを歩いている時、実業家マントリング家の執事に呼び止められ、邸内に招かれる。そこでは今から因縁の開かずの部屋を開封し、カードを引いて当たった人物が二時間部屋に籠る催しが企画されていた。H・M卿もその場に呼ばれていた。いくつかの場面があった後、ベンダーという人物が鍵のかけられた部屋に入った…。時間が経過した後、部屋は静まり返り、ベンダーは毒殺された様子で死亡しているのが発見された。衆人環視の密室で、なおかつ関係者のアリバイが確認されている状況で…。

### 『曲った蝶番』

1938年の作。私の手元にある本は創元推理文庫1973年の第8版。こちらはギデオン・フェル博士もの。

ケント州に住むジョン・ファーンリ准男爵をめぐる事件。彼は十五歳の時に不祥事を引き起こして父親に見放されてしまった。ジョンはアメリカの従兄弟のところに行くことになり、家庭教師の人と共に大西洋を渡るために乗った船がタイタニック号。氷山に衝突して沈没。別の船に救助されたジョンは、アメリカで25年過ごした後イギリスに戻り男爵家を継ぐことに。何年間か落ち着いて暮らしていたのだが、パトリック・ゴアと名乗る人物が「自分の方が本物のジョン・ファーンリだ」と名乗りを挙げる。タイタニック号沈没の時に入れ替わったのだと主張。弁護士を立てての争いになるのだが…。そんな中、ジョンの死体が池に浮かぶことに…。名探偵フェル博士もなかなか解決には至らない。自動人形や悪魔礼拝などが絡み、不気味な雰囲気全編を覆っている。

### 《ディクソン・カーのベスト表》

1. 火刑法廷
2. ユダの窓
3. 三つの棺
4. 赤後家の殺人
5. アラビアンナイトの殺人
6. 曲った蝶番
7. カー短編集2 (創元推理文庫版)
8. 黒死荘殺人事件
9. カー短編集3 (創元推理文庫版)
10. 連続殺人事件
11. 白僧院の殺人
12. カー短編集1 (創元推理文庫版)
13. 緑のカプセルの謎
14. 読者よ欺かるるなかれ
15. 夜歩く
16. 貴婦人として死す
17. 絞首台の謎
18. 皇帝のかぎ煙草入れ
19. カー短編全集4 幽霊射手
20. 爬虫類館の殺人
21. 弓弦城殺人事件
22. 九つの答
23. 魔女の隠れ家
24. 死時計
25. カー短編全集5 黒い塔の恐怖
26. 帽子収集狂事件
27. テニスコートでの死
28. 猫と鼠の殺人
29. 孔雀の羽根
30. 死者はよみがえる
31. 四つの凶器
32. 仮面荘の怪事件
33. 火よ燃えろ
34. ビロードの悪魔
35. 囁く影
36. 疑惑の影
37. 喉切り隊長
38. 青銅ランプの呪い
39. バトラー弁護に立つ
40. ニューゲイドの花嫁
41. 死者のノック
42. 墓場貸します
43. 時計の中の骸骨
44. 赤い鎧戸のかげで
45. ロンドン橋が落ちる
46. 雷鳴の中でも